

人類働態学会 第 18 期第 2 回理事会議事要旨 HP 公開用

日時：2005 年 5 月 7 日 14：00～17：00

場所：筑波大学大塚キャンパス，教育開発国際協力研究センター東京分室（E157）

出席者：岡田守彦，片岡洵子，菊池安行，小木和孝，小島龍平（事務局），田中秀幸，中田英雄（副会長），早弓 惇，松村秋芳。

配付資料

資料 1．人類働態学会第 18 期第 2 回理事会

資料 2．JHE 編集報告

資料 3．「働態研究の方法」シリーズの出版計画（案）

資料 4．高齢者のバス利用実態と車内働態の分析に係る研究（案）

資料 5．人類働態学会「共生」シンポジウム

I．第 18 期第 1 回理事会議事録の確認（資料なし）

II．議長および書記の選出

互選により中田氏を議長に，田中氏を書記に選出した。

III．報告事項

1．会員の動向について

小島事務局長より，会員の動向（入会者 1 名）が報告された（資料 1）。

2．第 40 回学会大会の準備状況について

熊倉博雄大会長の代理として小島事務局長より，第 40 回大会の演題の集まり状況とプログラム案が報告された（資料 1）。

3．会報

森和夫会報編集委員長の代理として田中氏より，次の 2 点が報告された。

1) 会報第 81 号が 2005 年 4 月 16 日付けで発行される（資料 1）。

2) 学会ロゴマークは第 82 号から採用する予定。

4．JHE

岡田 JHE 編集委員長から，Vol. 32(2)2003 の刊行状況，投稿状況，編集状況が報告された（資料 2）。同号掲載論文の PDF 版は，印刷不可・編集不可のセキュリティ設定後，ホームページへ掲載する。

IV．審議事項

1．会報関係

1) 学会大会抄録集について

学会大会抄録に加えて，発表内容に対する司会者のコメントも掲載することとし，熊倉大会長（大阪大学）に依頼する。

2) 表紙デザインの変更について

次号から学会ロゴマークを会報表紙に採用するにあたり，ロゴマークの配色を現在の表紙色に合うように変更する。ロゴマークデザイナーへはその旨，通知・連絡する。

2. JHE関係(資料2)

1) Vol. 33の編集について

発行の遅れている Vol. 33(2004)の早期刊行を目指す。また、未掲載分の34回大会～39回大会分学会大会抄録集の原稿を早期に回収し、編集委員が分担処理し、Vol. 33に一括掲載する。

2) ページ超過料金について

投稿数確保の観点から、ページ超過料金を撤廃する。

3) 無料別刷り50部の送料について

Vol. 32(2)(2003)から論文別刷り50部が無料配布となったことに伴い、海外向けも含めて著者への送料は学会負担とする。

4) 編集委員長交代と新編集体制について

岡田編集委員長から、Vol. 33の編集・刊行をもって委員長職を交代したい旨の申し入れがあり、承認した。早急に後任者の選考を行い、岡田氏の退任前にVol. 34以降の新編集体制を固める方針を確認した。また、新編集体制を構築していく過程で、電子投稿制の採用とそれに伴う投稿規程の改訂、on-line publication方式の採用などを検討していく。

5) 広報について

学会ホームページ上でJHEの論文別刷り50部無料配布・送料無料などを宣伝することとし、WEBチーム(松村氏、田中氏、河原氏)が中心となってJHEの活性化に向けた広報活動(会報、ホームページ)を行う。

3. 出版計画について(資料3)

小木氏より、学会共同編集による「働態研究の方法」シリーズ本の出版計画が提案され、原案通り承認された。計画の要点は、次のとおり。

- ① 今後の働態学研究の方向についての討議に資することを目的とする。
- ② 人類働態学会内に出版企画タスクフォースをおき、会員の意見を求めながら共同作業による出版を行う。この計画の実施に当っては、会員による執筆応募方式によるものとする。
- ③ 出版企画の開始時期は平成17年7月、シリーズ出版の期限は平成19年6月。
- ④ 成果は公刊し、学会内外の討議に広く活用する。成果をみて、人類働態学会内あるいは関連領域学会・機関のシンポジウムを計画する。

4. 学会共同研究について(資料4)

堀野氏・酒井氏の代理として小木氏より、国土交通省関係の研究費の申請(研究題目「高齢者のバス利用実態と車内働態の分析に係る研究」)および共同研究者の学会内公募について説明があった。当該研究課題を学会共同研究プロジェクトと位置づけ、理事会としてサポートしていく。今後は小島事務局長が両氏と連絡を取り、具体的作業について協議する。会員に対する公募等の広報活動はWEBチームがサポートする。

5. 学会シンポジウムについて(資料5)

田中氏より、学会シンポジウム「共生」シリーズの第1回ミニシンポジウム(テーマ「道具と身体との相互作用」～ヒトと道具との共生を考える～、代表世話人:中田英雄氏)の企画について提案があった。参加者数確保の観点から、開催地を東京近辺、開催日時を2005年12月の東日本地方会と連日開催とする方向で検討する。

6. 学会活性化について

WEB チームから、学会活性化について提案があり、以下のとおり作業を進めることとした。

- ① 会報に掲載された故松田達郎先生の特集記事を英文化し、JHE のコミュニケーション論文へ代理投稿する。
- ② 優秀発表賞受賞者（およびその共同研究者や論文指導者など）に対し、JHE への投稿を積極的に呼びかける。
- ③ 入会促進キャンペーンを行う。理事が中心となって、学会大会や地方会において新規会員確保に努める。
- ④ 学会共同研究を前提として、文部科学省の科学研究費補助金の申請を行う（理事は、研究代表者として協力する）。

7. 役員の人事について

2005 年度の役員人事について協議した（特記事項：総会審議事項のため協議内容の詳細は割愛）。

8. 学会運営体制の強化策について

2005 年度の学会運営体制の強化策を議論した結果、WEB チームが学会運営業務を分担し、学会運営の建て直しを図ることとした。担当は以下のとおり。

事務局業務分担：田中氏、JHE 編集分担：松村氏、会報編集・ホームページ維持管理作業分担：河原氏。

以上